

1月23日（金）に本年度第2回学校保健委員会と兼ねて、性教育講演会を行いました。今年度も、中島助産院院長の中島桂子先生をお迎えし、命の大切さや心と体の成長についてお話をしていただきました。1年生のみなさんは、中島先生の話の話を聞き、命の大切さをしっかり受け止めていたようです。生徒の感想を一部紹介します。

大人になっていく君たちへ

～命の誕生する現場から～

中島助産院 院長 中島桂子 先生



- 赤ちゃんが生まれてくるのは当たり前だと思っていました。しかし、亡くなって生まれてくる子もたくさんいることがわかりました。そして、その両親の悲しみはとて大きいことを知り、涙があふれそうになりました。私たちが生まれてこられたのは、両親や祖父母がいてくれたからだとよくわかりました。
また、性があることによって新しい命が誕生することもわかりました。私たちは大人になっていきます。その中で愛のあり方は人によって違います。それを考えながら大人になりたいと思います。
- 今、思春期を迎えています。これから困ったことや大変なことがあるかもしれませんが、家族や友達などに相談して乗り越えていきたいと思いました。
人は助け合わなければ生きていけない、という言葉も心に残りました。一人の力では何もできなくても、たくさんの方が集まれば可能になることはよくあります。これからも、たくさんの人と関わり合い助け合いながら生きていきたいと思いました。
- 母親とかに反抗期になっていたけれど、今回の授業を受けてすごく感謝できました。将来、しっかりとした大人になれるようがんばります。そのためには、勉強したり、人との関わりをもったり、ゲームばかりしていないで家族とコミュニケーションをとりたいと思います。
- 性に関しては恥ずかしいことだと思っていましたが、今回お話を聞いて、恥ずかしくないことだとわかりました。将来、私も子どもを産むと思います。とても大変なことだと思いますが、1人の命を授かることはとても大切なので、大切に大切に育てて、人権をしっかり尊重してあげたいと思います。
- 私が心に残ったことは、「人は産まれてくる時に夢と希望を持って産まれてくる」という言葉です。私は1人っ子で、家族全員がとても心待ちにしていたと母親から聞きます。その話を聞くとうれしく感じます。本当に私たちは、奇跡の中で生きているのだと感じました。

- 「性」についての授業は、笑い事にしたり、大げさに嫌がる人もいるけど、変な事ではないと考えました。

「男だから」「女だから」と行動を制限するのではなく、男女に関係なく協力して生きていけるような環境になるといいなと思います。

今は、大人になることがどういうものなのかよくわからないことも多いけれど、学ぶ機会がある時には、意欲的に取り組みたいと思います。

- 私たちは親のことをうるさいとか思ったり、反抗的な態度をとることがあります。でも、私たちが今ここにこうして元気に生きていられるのは、親が今までずっと育ててくれたからです。困ったことがあったり、何かあった時に助けてくれたりするの、ほとんど親です。なので、反抗的な態度はとらずに、しっかり言うことを聞きたいと思います。

私もいつかお母さんになる時がくるとしたら、ケータイばかりいじらずにコミュニケーションをしっかりとって、立派な子に育てたいと思いました。



- 中島先生の講演で「命をむだにせず生きよう」という思いが強くなりました。生まれたくても生まれることのできなかった方々の分まで、必死に充実した人生を送ろうと思います。

赤ちゃんのお話にも感動しました。こうやっているいろいろな発見ができるのは生きているからです。産み育ててくれた親に感謝します。

～まとめのスライドより～



みなさんが書いた感想は、中島先生にお渡ししました

- ◎あなた達みんな、命をつないでいく人
- ◎人は、誰かとつながりたい
相手の事を考え、思いあう大切さ
人間の弱さ
- ◎大人になっていくと、自分で考えてから決める
自信が持てるように訓練している
「みんながしてるから」は、大きな間違い
自分勝手、無関心、面倒くさい、でいいか？
我慢も大切だけど、助けを求めてもいい

講演会の後、中島先生、男女共同参画室榎本様、保護者の方々、学校担当職員で話し合いの場を設けました。

子どもたちの体や心の成長について、和やかに情報交換等を行いました。

その中で中島先生より、「私たち大人が言葉遣いに気をつけましょう。言葉によっては、子どもたちの自己肯定感が下がってしまいます。」というお話がありました。

叱る場合でも言葉遣いには気をつけたいですね。



